

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	対象地域においてコミュニティの健康が向上する。
(2) 事業内容	ケリョ郡ケリョ・イーストおよびケリョ・ウエスト準郡において、コミュニティを中心としたヘルスケアシステムが機能することを目指し活動している（3年間を予定）。具体的活動内容は以下のとおり。 ※略称 CU: Community Unit、CHV: Community Health Volunteer、CHC: Community Health Committee、CHA: Community Health Assistant <期間> 2015年2月～2016年6月 <事業内容> 【活動①】ケリョ・イースト準郡保健行政によるCU立ち上げ支援 ケリョ・イースト準郡保健行政が、ソイン地区ケリョレットにて、新CU立ち上げに向けた活動を開始できるよう支援した。 ・CU立ち上げに向けた、対象地の行政官向け、および地域住民向けの情報提供と理解促進を図る会議を実施した。（2-4月） ・ケア保健省が定める住民参加型手法で、CHC・CHVを選出した。（4-5月） ・CHC向けの7日間の研修（5月）終了後、現在CHVが活動するための14日間の基礎研修（6月-7月）を実施中。 【活動②】ケリョ・イースト準郡保健行政による既存CU運営支援 ケリョ・イースト準郡保健行政が、既存のケリョラムCU及びケリョラッチCUを運営、監督し、CHVとの月例会議の実施、保健情報の収集等、通常の監督を自律的に実施できるよう支援した。また、地域のニーズに応じたCHV、CHC向け研修の実施、保健省の活動（キャンペーンへの参加、地域でのコレラ等伝染病発生の監視や、ヒトパライの症状の発見と通報）へのCHVの参加を積極的に進め、CHVが地域で重要な役割を担っているという実績を積んでいった。 ・性と生殖に関する健康研修（各1回、3月）計48名出席。 ・アップデート研修（各1回、3月）計82名出席。 ・農業栄養学研修（各1回、4月）計79名出席。 ・アクションプランの実施回数：3回。 ・CHVによる、各CU全世帯調査の実施（5月）：1回。 ・月例会議：各5回ずつ計10回。 ・保健省による、世界マリアデー（5月）、全世帯への蚊帳配布活動（6月）へのCHVの参加。 【活動③】新CUが関わる地域診療所支援 新CUの医療面でのサービス提供者及び監督者となる地域診療所の運営を支援した。開所時に配布した薬品は、その後保健省により補充されている。 ・これまで医療有資格者のいなかった2診療所に、各1名ずつ看護師を雇用することで、医療サービスの届かなかった住民に対するアクセスを改善し、CHVが妊産婦や患者をリファールしやすい体制を整えた。 ・水タンクおよび血圧計や体温計等の必要な医療資機材や当初保健省に在庫の無かった薬品も支給した。 【活動④】ケリョ郡議員向け予防医療予算獲得のための啓発活動 ケリョ郡政府・保健省内において、予防医療・地域保健の理解及び財政的投入不足が見られたため、次年度予算成立前に、郡議員向け啓発会議を実施し、今年度予算化されていなかった予防医療予算の翌年度獲得を目指した。参加議員は、予防医療の情報が乏しかったが、CHVの存在意義や地域住民の健康向上の必要性に理解を示し、CHVとの協働について積極的な議論が行われた。 ・郡議員向け啓発会議参加者：保健医療担当議員15名、保健大臣・保健省関係者6名 【活動⑤】広報活動等を通じた関係者への啓発活動及び、CHC、CHVの動機づけ

	式典や取材の機会に CHC、CHV の活動の意義についての情報発信を積極的に行った。また関係者への理解を促し、CHV の存在意義を承認することにより、無償で活動する CHV の自信や動機付けにつながった。 ・5月の大統領夫人のケチ郡ご訪問に際し、当団体の活動の報告を行うと同時に、CHC、CHV も式典へ参加した。 ・日本の主要新聞・雑誌記者による取材時に、CHV の活動視察の機会を設けた。
(3) 達成された効果	2 年次開始時より 6 月末までの 5 か月間の効果達成度は以下のとおり。 現時点での「事業により期待される成果」達成度 【成果 1】既存の CHV が自身の役割を遂行できる。 【指標と現状】 ・CHV のブレ・ホ・ストテスト結果の推移：6 月末から CHV の研修を実施したため、本報告書対象期間内では結果は未集計。 ・CHV のレポート提出率 70%以上：カブ・ラム CU は 70%以上、カブ・レラチ CU は 66%。 ・CHV が健康教育を実施する回数：保健省のキャンペーンにて 2 回、小学校にて 4 回、地域にて多数実施。 【成果 2】ケチ郡保健省から CU へのモニタリング体制と情報利活用が改善される。 【指標と現状】 ・CHV から CHA へのレポート報告の回数は四半期に 1 回以上：毎月（計 5 回）提出しているが提出率は上述のとおり。 ・保健行政関係者会議の実施回数 年間 8 回以上：ファシリテーターズ会議 6 回、JC 会議 1 回開催。 ・CHA のモニタリングレポート報告回数 年間 8 回以上：毎月 1 回（計 5 回）提出。 現在、事業の一環として保健行政関係者との会議を当団体主催で実施しているが、定期的な振返りや計画立案に不慣れなためか、会議への積極的関与や自律的態度があまり見受けられない。近いうちに行政区変更により、事業地は新準郡での活動となるため、2 年次後半では新体制となる保健行政との関係づくりや CHS の持続発展性に関し、関係者の理解を求める予定である。 【成果 3】既存の CU においてコミュニティが健康問題を理解し、解決策を検討することができる。 【指標と現状】 ・CHV と関係者の会議実施回数 4 半期に 1 回以上：月例会議を実施（計 5 回） ・コミュニティにおけるアクションプランの有無：村ごとのアクションプラン作成回数：2 回/村 ・アクションプランの実施回数：3 回 【成果 4】ケチ郡保健行政が新たな CU を立ち上げ運営する。 【指標と現状】 ・ゲリット地方行政対象の説明会（2 回）、および CU 設立と地域の健康増進へ協力を呼びかける住民会議を実施（4 回、各回住民 50～100 名参加）。 ・CU を住民の立場から支え CHV を監督する行政官や長老等からなる 14 名の CHC メンバーを長老会議（1 回）で選出。 ・CHC と住民により 31 名の CHV が選出（対象地域内各 1 回ずつ計 2 回）された。 ・14 名の CHC 向けの 7 日間の研修を実施した。 ・CHC、CHV 計 46 名の CHV 向けの 14 日間の研修を実施中。 ・本活動に関する保健行政関係者会議は、計 7 回実施。
(4) 今後の見通し	2 年次後半は、ケチ・イスト準郡カブ・ソック地域での CU 設立を行い、2 新 CU の活動を軌道に乗せる。その際に、旧 CU とともに持続発展できるよう、旧 CU の活動から学ぶ機会を設け、同ソック地区の CU として情報共有しながら育成していく。 3 年次の候補地の運営・レポート方法および、事業終了後の持続発展性についても、ケチ保健省と頻りに情報交換および予防医療費の予算編成の働きかけもしながら、持続可能な CU の設立と運営を目指す。 なお、近いうちに行政区の変更があり、事業地は新しい準郡となり、準郡保健省管理職は変更となるが、すでに情報交換を頻りに行っており、事業運営に大きな影響は出ない見込みである。